

2022年09月25日(日)

中医学臨床診治の特徴

上海中医薬大学附属日本校 陳 雷

一、中医学臨床診治の特徴とは

(一) 整体観念

1. 体内では 様々な生理機能を担う各組織、器官はお互いに促進と制約を行い、協調し合い、有機的な統一します。
2. 体外では 人体は生存する自然環境に合わせて生理機能を調節して行います。

(二) 恒動観

1. 恒動とは、一刻も止まらなく運動、変化及び発展する意味を指します。
2. 中医学では、人体も含まれる自然界のあらゆるものは終わりのない変動状態にあると思います。

(三) 弁証論治

定義：弁証の結果に基づいて治療を論じる。

1. 弁証：証を弁別すること。(内容：病症の診察、整理、分析、帰納)
2. 論治：治療についての考えること。(内容：治法・処方・実施)

二、臨床応用

(一) 整体観念の応用

1. 体内 ①臓器組織の間の統一 ②心身の統一
2. 体外 ①季節・気候・時間との協調 ②地理環境・飲食内容との協調

(二) 恒動観念の応用

1. 生理上 ①生命状態：生長壯老已の変動
②生理機能状態：盛衰の変動
2. 病理上 ①発生 疾病の発生 健康⇒疾病の変動
②発展 疾病の進化 ・加重或いは軽減への変動
・単一性から複雑性への変動
③転化 疾病の変化 寒⇔熱、虚⇔実の変動

(三) 弁証論治

1. 証候重視 病人(性別・年齢・体格・仕事・習慣)
疾因(外因・内因・不内外因)
病機(寒熱虚実瘀滞)
病勢(軽重緩急)
病位(表裏)
病性(寒熱)
正邪の盛衰(虚実)
2. 従証施治 治法・処方・施療
虚則補之、実則瀉之
寒則温之、熱則寒之